

今月の相談  
彼女のことが心配で…

私には3年近く交際している年下の恋人がいます。彼女は不特定な異性と付き合っていたことを秘密にしていたようで、半年前に私が違和感に気づき、尋ねてみました。

話を聞いてみると、昔からそのような不安定な状況に陥りやすく、幼少期の家庭環境で父親の浮気があったことや母親が宗教にのめり込んでいったことなどが要因だとも教えてくれました。

現在、彼女は宗教系の施設に入っており、あと2か月で戻ってきます。その時まで将来のことを真剣に考えていきたいと思っています。

相談員より

「真剣に」とは「結婚を前提に」考えているのでしょうか。3年近く交際しているということは趣味やお互いの性格が合っているのでしょうか。

彼女が施設から戻ってくるまでに考えをまとめて、色々な準備をしていきたいですね。今後のことをあなたが真剣に



考えているのならば、まずは自分の両親や信頼できる友人などに彼女やその両親のことも含めて話をしてみたいはかがでしょうか。そして、彼女に自分の決意をしっかりと話すことで、あなたの真剣さが伝わりますよ。

メンズお悩みあれこれ

残業が続いてストレスが溜まり、体の不調も出てきてしんどい。

クラスメイトにからかわれ、毎日嫌な思いをしていて学校に行きたくない。

単身赴任で県外から豊田市に来たが、友人もできず一人での時間が淋しい。

妻がDVを理由に調停を起した。私が妻から受けた行為もDVではないかと思うが、自分も悪いと思っているので誰にも相談できない。

息子がうつ病になって仕事も休職することになり、とても心配だ。

妻の暴力がエスカレートして、どうすれば良いかわからない。

無意識のうちに“男らしさ”にとらわれ、生きづらさを抱えていませんか。男性だから弱音を吐いてはいけない、悩みを打ち明けることは恥ずかしいということはありません。悩みや不安をひとりで抱え込まず、「メンズコール☆とよた」へお電話いただき、まずはあなたの思いをお聞かせください。



女性のための電話相談室  
クローバーコール  
(0565) 33-9680

相談無料  
秘密厳守

男性のための電話相談室  
メンズコール☆とよた  
(0565) 37-0034

相談無料  
秘密厳守

編集・発行

キラッ☆とよた

とよた男女共同参画センター  
〒471-0034  
豊田市小坂本町1-25  
(豊田産業文化センター2階)  
TEL : (0565)31-7780  
FAX : (0565)31-3270  
Email : clover@city.toyota.aichi.jp  
HP : https://clover-toyota.jp/



[アクセス] 名鉄豊田市駅から徒歩8分  
愛知環状鉄道新豊田駅から徒歩3分

開館時間

AM 9:00 ~ PM 9:00 日曜日はPM 5:00まで  
月曜日休館 (月曜祝日はPM 5:00まで開館)

編集後記 これまでは複数コンテンツで紙面構成していましたが、今回は対談を企画しました。ご意見をお待ちしております。

豊田市 男女共同参画情報誌:クローバー  
Clover

No. 45  
spring  
2023

令和4年度に開催した人気講座をご紹介します！



みんな大好きこだわりカレー (12月)



親子でけんちく「お菓子の家」(8月)



更年期の心とカラダのトリセツセミナー (12月)



あなたの知らないコーヒーの世界 (10月)

キラッ☆とよたでは年間を通して数多くの講座を開催しています。ぜひご参加ください。

特集

対談  
女性が活躍できる社会の実現に向けて

ある日の相談室 「彼女のことが心配で…」

メンズお悩みあれこれ

Cloverとは?

クローバーの葉を一人ひとりの生き方を尊重した道しるべとして表現することで広く親しんでいただけるよう情報誌の通称を「クローバー」と名付けています

[表紙写真] 令和4年度開催した講座の様子

# 対談 女性が活躍できる 社会の実現に向けて



女性が活躍できる社会の実現に向けての現状や課題について、豊田市男女共同参画推進懇話会座長で名古屋学芸大学看護学部名誉教授の石田路子さん(写真右)とNPO法人ブルーバード代表理事 西尾果小里さん(写真左)に、とよた男女共同参画センター所長(写真中央)がお話を伺いました。

**所長** いわゆる「女性活躍推進法」が平成27年に制定され、女性の社会進出が進んでいますが、一方で日本のジェンダーギャップ指数は146か国中116位(2022年度)と依然として低い水準で、多くの課題があります。女性の活躍を推進するためには男女共同参画社会の実現が不可欠です。そこでまず、現在のお仕事と男女共同参画への関わりについてお伺いします。

**石田** 現在は、高齢者福祉や障がい者福祉などの「社会福祉制度」や、医療保険や介護保険などの「社会保障制度」を大学で教えています。しかし、学生の頃は親子や夫婦、血縁といった「家族社会学」に興味があり、徐々に女性や高齢者の問題へと広がって福祉の視点が入り、現在専門の社会福祉につながっています。男女共同参画については、若いころからとても関心があって、卒論で女性の労働問題をテーマにしました。当時は結婚して働き続ける女性はごく少数派で、肩身の狭い思いをするのはなぜ?と疑問を持ったのがスタートでした。

**西尾** 私は企業向けの女性活躍や働き方改革、人材の定着と活性化のコンサルティングをしていて、行政からは男女共同参画や働き方改革関連事業などを請け負っています。会社員の頃、参加したいプロジェクトがあった



のですが、子どもがまだ小さく、泣く泣く諦めた経験があります。その後、別の社内改革を立ち上げ、自分の力を発揮し物事が良い方向に進み誰かが喜んでくれる、これこそが人の生きる喜びだ!と思いました。そして、この感覚を社会にも広げたいと考えました。その後会社を退職し、何をしたらいいか手探りの状態だったとき、豊田市の男女共同参画推進懇話会の市民公募委員をさせていただきました。

**所長** 石田先生にはその懇話会委員を長年務めていただいているのですが、この20年ぐらいで男女共同参画に関する社会の認識はどう変わってきたとお感じですか。

## 意識は変わったけれど

## 仕組みが変わっていない

**石田** あからさまな差別表現や行動などは社会的に排除すべきという意識はかなり高くなっていると思います。古いテレビドラマや映像を見ると、出てくるセリフに対して「こんなこと言って大丈夫?」と違和感を感じるがありますよね。そのような認識を多くの人を持つようになったというのは大きな変化だと思います。以前は会社に入社しても女性と男性で求められる仕事も違っていました。今はそういう部分は改善されていると思います。ただ、処遇面や給与面など社会の仕組みが根本的に変わったかという疑問です。

**所長** 西尾さんはNPO法人を設立し、女性活躍セミナーを平成30年から実施されていますが、女性活躍の実態についてどうお感じですか。

**西尾** 平成25年から市の仕事で数年間で200社ぐらいの事業所に訪問調査をしたことがあるのですが、当初は女性活躍と言うと怪訝な顔をされるぐらいだったんです。それが平成27年に政府が女性活躍を推進し始めたら企業も急に変わってきて、訪問をすると逆に質問が飛んでくるぐらいでした。

**石田** 女性活躍推進法が出されただけで、社会が動き出すというのは本当に不思議なものですよね。コロナ禍で特に飲食業、サービス業などにひずみが出



ました。非正規雇用の失業が増え、そうした人たちは女性が圧倒的に多く、生活困窮にまでつながってしまっている。窮地に陥って鮮明になったのは、性別で比較するといまだに女性が補佐的な立場になっていて、40年前と変わっていないということ。その根本をどう変えるかという、やはり制度だと思います。制度や政策を変えていかないといけない。少子化の問題にもつながると思います。

**所長** 岸田首相が「異次元の少子化対策」を打ち出しました。少子化対策にも女性活躍や男女共同参画の推進が不可欠です。そのための課題はどのようなことでしょうか。

## “扶養する、される”ではなく

## 個人単位での制度設計を

**石田** 最初にお話ししたように、私は社会保障を専門としていますが、この何十年かで大きく変わっているのが家族の形態です。今は親と子の世帯ではなく、単身世帯が最も多い。それなのに社会保障制度は“扶養する、される”という世帯単位のまま。現状と全く合っていませんよね。私は社会保障制度は個人単位で作り直すべきだと思います。1人の人間が生まれてから亡くなるまで、個を保証された上でどう生きて、制度でどう支えるか。そのうえで男女共同参画社会を目指していくべきだと思います。

## 女性活躍のカギは “やる”と決めて工夫を重ねること

**西尾** 制度の壁の話は私もよく聞きます。他によく聞く課題は、経営層は女性活躍に積極的でも、職場の受け入れ態勢が追いついていないということです。女性活躍が進んでいる企業でも、はじめは現場の反対に遭い、頭を悩ませながらも現場と一緒に工夫を重ねてきた企業が大半です。結果、女性のみならず、男性にとっても働きやすい職場になり、生産性も上がり、人材確保にもつながっている例をたくさん目にするようになりました。具体的に何から始めようと悩む企業は、行政の行う認定取得等を足掛かりに、社内環境や制度の整備から始めるという企業も多いです。

**所長** 最後に、今後の女性活躍や男女共同参画に必要なこと、将来の展望などについてお伺いします。

**石田** 一人一人の個を大切にするとともに、女性、男性、若い人、高齢の人、それぞれの考え方、価値観があると思うので、違いをどのように認めていくかが大事だと思います。そして、その違いで対立するのではなく、協力する方法を見つけていかなければいけない。男女共同参画というのはその中の最初のテーマだったのではないのでしょうか。これまでいろいろな取り組みが実績として形になってきて、次は誰一人取り残さない社会をどうやって築いていくかというのが大きなテーマになると思います。

## 多様性には価値がある!

**西尾** 人や組織ってメリットがあれば動くんですね。男女共同参画やダイバーシティにどれだけ価値があるかを行政が情報発信するのは大切だと思います。企業で言えば、「人材不足だから仕方なく受け入れる」のではなく、「社員が多様だからこそ支え合うことができ、一人ひとりの能力が最大限発揮できる」という感覚にシフトすることが大切です。いままでの慣習ではない新しい風を吹き込む。女性にはぜひ、自分らしい感覚に自信を持って可能性にチャレンジしてほしいですね。

**所長** ありがとうございます。今後も誰もが自分らしく輝ける豊田市を目指していきたいです。